

中部森林管理局事業評価技術検討会の議事概要

- 1 日 時：平成24年7月6日（金）13：30～15：30
- 2 場 所：中部森林管理局 局長応接室
- 3 出席者：事業評価技術検討会 今村 剛委員、北原 曜委員、山田容三委員
中部森林管理局 宿利計画部長、小林森林整備課長、西田森林整備課長補佐、
小瀬設計指導官、傳村販売課長、乾治山課長、洞口治山技術専門官、竹内企画調整室長、丸山監査官
- 4 議 題：平成24年度林野公共事業の事業評価（期中及び完了後の評価）について
- 5 内 容
事務局及び説明員から、今回の事業評価の対象である期中の評価（1地区）、および完了後の評価（2地区）の事業の概要・目的及び、費用対効果分析等の評価項目について説明を行い、これらに対し委員から次のような意見があった。

（1）期中の評価

① 民有林直轄治山事業（常願寺）

（委 員）山地災害防止便益の算出に使用している年間山腹崩壊発生率3.7%は、当該評価箇所の発生率ではなく、全国平均の発生率を林野庁統一で使用しているということであるが、高すぎるのではないか。

（事務局）林野庁へ伝えて参りたい。

（委 員）当該箇所で採用している法枠工が森林に戻す（森林への復元）という観点から最適かという疑問がある。

大鹿地区では、法枠工ではなく階段工を採用し、成果を上げていることもあり、法枠工の効果の検証と階段工の採用も検討されたい。

（事務局）これからの課題として取り組んで参りたい。

（委 員）国有林が実施した治山工事の付近で、国土交通省立山砂防事務所が砂防工事を実施しており、その保全対象区域は当該事業の保全対象区域より下流の地域ということであるが、総便益を算出する際に、砂防工事との棲み分けを明確にしておく必要があると考える。

（事務局）林野庁へ伝えて参りたい。

(2) 完了後の評価

① 民有林直轄治山事業（揖斐川）

(委員) 写真等から事業結果は良好であり、こうしたものを使って治山事業の効果を一般に広めていく取組が必要である。

(事務局) これからの課題として取り組んで参りたい。

(委員) 災害防止便益を算出する際に、土砂流出防止便益と山地災害防止便益を比較し、高い方を採用するということであるが、そうではなく、土砂流出防止便益は単独で評価すべきと考える。

(事務局) 林野庁へ伝えて参りたい。

(委員) 平成15年度の評価時点と比較して、総便益が減少したのは、事業地の下流に徳山ダム（多目的ダム）が完成したことにより、徳山ダムの下流域を保全対象区域から除外したためとのことであるが、本事業は徳山ダムへ流入する土砂を減らし、ダムの寿命を延ばす役割もあるので、評価手法の検討が必要と考える。

(事務局) これからの課題として取り組んで参りたい。

(委員) 社会的割引率4%の妥当性は疑問。

(事務局) 林野庁へ伝えて参りたい。

② 森林環境保全整備事業（木曾谷）

(委員) 本事業の便益の算定に当たり、森林の総合利用便益、その他の便益（ボランティア誘発等）については、平成13年度に事前評価を実施した際には評価項目としておらず、事前評価との整合性を図る観点から完了後の評価項目としなかったとのことであるが、アクセス時間の短縮や森林整備へのボランティア参加者の増加等の成果もあることから、今後、評価項目に加えることもされてはいかがか。

(事務局) 林野庁へ伝えて参りたい。

※(事務局) 頂いた意見の内、地区ごとの個別の指摘につきましては、評価個表に反映させていただき、評価手法そのものに対する意見は別途林野庁に意見として伝えて参りたい。

(委員) 了解。